

昭和55年度茶園関係

除草剤・生育調節剤試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会 技術部

昭和55年度茶園関係除草剤・生育調節剤試験成績検討会は、昭和55年12月12日(金曜日)に東京都台東区池之端のクミアイ化学工業(株)会議室において開催された。

集し、除草剤2試験(8点)、生育調節剤3試験(8点)について試験成績の報告、検討が行なわれ、活発な質疑応答および慎重な審議の結果、判定等概要は次表のとおりになった。

試験場関係者等20名、委託関係者等24名が参

昭和55年度 茶園関係除草剤・生育調節剤試験供試薬剤・場所・方法等および判定結果一覧

A. 除 草 剤

薬 剤 名 ○ 種類名 ● 商品名	委託者名	剤型・有効成分 および含有率	新継 の別 前回 判定	試験実施場所 (数)	試験の種類; 処理時期; 散布薬量; 処理方法等	今回 判定	判定理由・内容・その他
1. AH-501 ① ○ パラコ ート ● _____	旭化成工 業	液剤 1,1'-ジメチル -4,4'-ビピリ ジリウムジクロ ライド7%	継 実・継	農林水産省茶 試(以下茶試), 長野南信農試, 三重農技セン ター茶業セン ター, 京都茶 研, 福岡農試 茶指. (5)	作用性・適用性試験 〔一年生雑草の防除 効果(メヒシバの生 育ステージと殺草効 果)および薬害の検 討, 異臭の有無を中 心に製品への影響の 検討〕 春期および夏期, 雑 草生育盛期, メヒシ バ草高7~8cm ... 70, 100 ml/a, メヒ シバ草高15cm 内外 ...70, 100 ml/a. ＜比較＞パラコート, 20ml/a.	実	●〔一年生雑草対象〕 春~夏期, 雑草生育中 (草高15cm 以下時), 70~100 ml/a, 雑草茎 葉処理. 〔但し, 茶樹にかから ないように散布する〕
2. HW-920 ○ DCMU ● _____	保土谷化 学工業	微粒剤 (3,4-ジクロル フェニル)-1,1- ジメチルウレ ア3%	継 継	埼玉茶試, 静 岡茶試, 福岡 農試茶指. (3)	適用性試験 〔一年生雑草の防除 効果と薬害の検討〕 春期および夏期雑草 生育初~中期, 雑草 発生前...750, 1000 g/a, 雑草発生前 ...750, 1000 g/a (メ ヒシバ草高1~3cm). ＜比較＞パラコート, 30ml/a.	実・継	実:〔一年生雑草対象〕 春~夏期, 雑草発生前 ~始期, 750~1000 g/a, 雑草茎葉兼土壌 処理. 継:①除草効果の確認. ②茶樹に対する(特に 傾斜地に於ける)薬害 の検討.

B. 生育調節剤

薬 剤 名 ○ 種類名 ● 商品名	委託者名	剤型・有効成分 および含有率	新継 の別 前回 判定	試験実施場所 (数)	試験の種類; 処理時期; 散布薬量; 処理方法等	今回 判定	判定理由・内容・その他
1. CE-781 ○ クロレ ラエキ ス ● スペ スエ ー ジ	クロレ 工業	液剤 クロレラエキ ス 〔ミネラル, ビ タミン, 遊離 アミノ酸およ び結合型アミ ノ酸 260 m μ 吸光度 OD 10 以上	継 継	茶試, 同枕崎 支場. (2)	作用性試験 〔窒素成分等の添付 による茶樹の生育促 進, 収量増加および 品質向上の検討〕 摘採期を通じて萌芽 前〜開葉期, 1 番茶 … 5〜7 日毎に 9〜 10 回散布, 2, 3 番茶 … 5〜7 日毎に 5〜 6 回散布; 100, 500 倍液. 〈比較〉尿素散布.	継	● 生育促進・収量増・品 質向上等効果について, 作用性試験を継続して 検討する.
2. GF-030 ○ (蒸散抑 制剤) ● グリン ナー	日本グリ ンナー	液剤 マイクロクリ スタリンワックス …… 10.0 % 他乳化剤, 水分 等 …… 90.0 %	継 継	埼玉茶試, 長 野南信農試, 岐阜中山間農 試, 奈良農試 茶業分場. (4)	適用性試験 〔蒸散抑制による茶 樹の寒干害防止およ び萌芽時期調節によ る凍霜害回避効果の 検討〕 ①寒干害防止, 12月 下旬・1 月上旬・2 月中旬 (3 回散布); 10 倍, 20 倍液. ②萌芽時期調節, 3 月下旬〜4 月上旬 (萌 芽約 10 日前) 10 倍, 20 倍液.	実・ 継	実: 〔寒干害防止効果〕 冬期 (12 月から 2 月), 10〜20 倍液, 300〜400 l/10a, 2〜3 回, 茶 樹茎葉処理. 継: 〔萌芽期調節 (萌芽 抑制) による凍霜害回 避効果〕 萌芽抑制効果が不明確 であるため, 散布の時 期・濃度・回数等につ いて再検討を要する.
3. (キノー) ○ パラフ イン ● キクノ ー	三和産業	乳剤 パラフィン …… 24 %	継 継	埼玉茶試, 長 野南信農試. (2)	適用性試験 〔蒸散抑制による茶 樹の寒干害防止の検 討〕 12 月下旬・1 月中旬 ・2 月中旬 (3 回散 布); 10 倍, 20 倍, 30 倍液.	実・ 継	実: 〔寒干害防止効果〕 冬期 (12 月から 2 月), 20〜30 倍液, 300〜400 l/10a, 2〜3 回, 茶 樹茎葉処理. 継: ①寒干害防止効果の 確認. ②寒害 (赤枯れ) 軽減に ついて検討.

外 国 文 献 抄 録

穀 物 の 収 量

第 1 図は, 玄米 (日本) と小麦 (イギリス) の収

量を 700 年にわたって示している。1900 年ころ

を境に著しく増していることがわかる。中世の